



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)



「作って食べよう！」 スタッフと子どもたちの昼食会より

## 「フリースペース えん」、 「東京シューレ」見学報告

9月22日、川崎市にある「フリースペース えん」と、「東京シューレ・王子校」の見学に行きました。今回は、参加者全員が初めて行った「フリースペース えん」を中心に報告したいと思います。

「フリースペースえん」は川崎市の「川崎市子ども夢パーク」内にあり、「NPO法人フリースペースたまり場」が、日本で初めて市(川崎市)と共同事業で始めた公設民営のフリースペースです。また、同NPO法人が市からの委託を受け、指定管理者として「子ども夢パーク」全体を管理・運営しています。「子ども夢パーク」は、①子どもの活動拠点、②プレーパーク、③フリースペースえん、の3本柱からなっています。

①・②は、開設時間ならいつでもだれでも自由に利用し、参加できる施設です。③は不登校などの子どもたちの居場所として開設されています。利用する際には、説明、面談などの後、体験期間などを経て、登録した後に利用できるようになります。ここでは、「誰もが安心して過ごせる場所」ということをコンセプトに、学校に行っていない子ども(小、中、高校生、若者もいる)や、障がいのある子ども等が、各年齢の枠を超えて集まっており、思い思いに過ごしたり、施設内のプレーパークで遊んだり、子どもたちが自主活動を展開しています。子どもの活動で行った藍染を、親たちも興味を持って関わって行く中から「工房たまりば」が作られました。子どもたちが若者や、親たちといっしょに、藍染め作品の

制作、販売なども行っています。

「学校外の多様な学び、生き方を支援」をスローガンに、子どもたちの自主企画・活動を支援しています。ものづくり、科学実験、ダンス、楽器演奏などの講座や、自然体験、野外合宿、学習支援を行っています。

「不登校・ひきこもり等で悩む本人や家族等の相談・援助活動」として、電話による相談や、来所相談(要予約・無料)を行っています。

「保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会及び情報の提供・発信活動」では、活動内容や、子どもたちの作品を紹介するホームページ作成、子どもや若者たちの生き方・学びへの理解を深めるための講演活動の実施、通信の発行を行っています。さらに、フリースペース・フリースクール、学校・児童相談所などの公的機関、関連団体とのネットワークづくりをすすめています。

「フリースペースえん」では、子どもたちは一日好きに過ごしますが、ひとつだけ決まっていることがあります。その日来た子どもたちで、今日のメニューを決め、買い出しに行き、自分たちで昼食を作るのです。「あそこに行くとは今日は何が食べられるのかな?と子は思う→いい匂いをさせる→一緒にご飯を食べておいしいね→一人じゃないんだ」と言う気持ちになって行くそう…。食べること、匂いって、大事なんだなと思いました。

今まで約20年の活動の中で、どういう経緯で「フリースペース えん」のソフト面、ハード面が出来上がっていったのか、また、どんな活動、運営方法をとっていったのか等、現在に至るまでの色々な貴重な生の声を伺うことが出来、とても勉強になり、参考になりました。ま

### 目次

「フリースペース えん」	1～
「東京シューレ」見学会	2
お知らせ	2
活動日誌	3
なんにわまんが	3
こんな本はいかが? (13)	4



### 居場所のひとつ

「作って食べよう! 第1回」  
10月26日、スタッフと子どもたちで昼食を作りました。みんなの協力で、デザート付きのお昼ができあがり、おいしくいただきました。次回は11月30日の予定。



た、なぜ、子どもが集まらないのか、集まった子どもの年齢や、男女比の問題をどうとらえたらいいかや、継続して通って行くことにつながらないのか、運営と資金のこと等、こちらからの質問に、一緒になって考えてくれるながら、ご自分のこれまでの経験をお話し下さり、そういった、一緒に考えてくださる姿勢にも見習うべきものを感じました。子どもの居場所にこだわり、「フリースペース」でありたいという代表の西野さんの言葉が、深く印象に残りました。

大切なことは、子どもの「自尊感情をはぐくむこと」、「スタッフ間で、何のためにこの事業をするのか」という明確なミッションがあるか、また、そのミッションがクリアに、皆に共有されているか、「誰が、誰のためにやるのか」「利用者が来なくても楽しい場にする。スタッフも楽しくなければ人も来ない」ということ、そして「開き続ける責任」との話は、とても心に残りました。

もう一つの見学先は、フリースクールの「東京シューレ」でした。東京・千葉に3カ所フリースクールがあり、おもに不登校の子どもたちが通っています。学習支援体制が整っており、特区制度を活用した小学校の運営や、ホームスクール(家庭での学習支援)制度があり、2007年にはシューレ大学も設立されました。

各シューレで小学児童が多い、中学生が多いなどの違いはありますが、ここでもいろんな年齢の子どもたちが一緒に過ごしています。時間によってピアノを教わったり、講座が決まっているものもあり、近くの公園に遊びに行ったり、本を読んだり、子どもたちが活動を決めています。

今回は、「フリースペース」と「フリースクール」の違いがなんとなくわかった気がしました。個性の違う2カ所の活動ですが、とても勉強になりました。(山本佳子)

#### 写真(上から下へ)

- ・子ども夢パーク 入り口です。
- ・バザーを開いていました。
- ・広場には手作りの遊具やステージがあります。
- ・東京シューレの一室です。ピアノの練習をしていました。

#### 発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。毎月第4月曜日、午後7時から、日光市民活動支援センターで開いています。どなたでも参加自由の会。気軽にご参加ください。(担当:西尾・白井) 連絡:090-3227-7079

#### 私たちと一緒に活動しませんか。

報徳今市振興会館での「子どもの居場所」運営、「学びサポート」、ホームページの維持管理、子育て相談、講演会やサイエンス・カフェなどイベントの立案運営など、「なんとなくのひろば」はいろんな方向に活動を展開しています。事業として挙げていても、なかなか継続的に動いていない、「自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動」などもあります。興味をお持ちの方は遠慮なく、電話、メール、ファックスなどで、ご連絡下さい。みなさまの協力をお待ちしています。

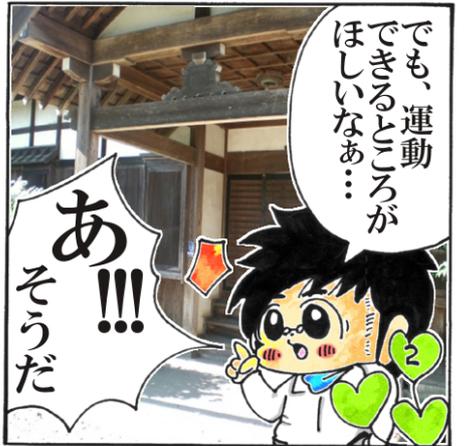
これまでの活動の内容は、ホームページ <http://www.nantonakuno.net/yotei.html> などをご覧ください。(手塚)

# ☆ 活動日誌

## 作って遊ぼう！

理事・沼尾（又ミヤーン） 作

- 9月11日（土）ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 9月13日（月）茶話会（15）
- 9月20日（月）通信・なんとなくのひろば 第21号発行
- 9月22日（水）「フリースペースたまりば」、  
東京シュレー（王子）見学会
- 9月22日（水）市教委へ報告書（第一期）提出
- 9月19日（日）ベリー会
- 9月27日（月）日光市教育長との話し合い
- 10月10日（日）サイエンス・カフェ 30  
「川むしたんけん隊」 塚崎庸子さん
- 10月11日（月）茶話会（16）パークゴルフ（だいや川公園）
- 10月16日（土）ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 10月24日（日）亀の島のイベントに参加（吉成、沼尾）
- 10月26日（火）「作って食べよう！」（居場所昼食会）
- 10月31日（日）ベリー会
- 10月31日（日）ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 11月 6日（土）第36回 理事会



### 川むしたんけん隊

前日、「中止かな」と思った強い雨。でも、「10月10日は絶対晴れます」との予想通り、当日午前10時過ぎからは青空がのぞきました。残念なことに、肝心の川はご覧のように川岸までいっぱいの水で、川に入っただけの観察はできませんでした。

岸で大人が虫を採集し、「毎日クリスマス」さんが提供してくれた休憩室に運んで子どもたちと一緒に川虫を観察しました。モンカゲロウ、チラカゲロウ、マダラカゲロウの幼虫、カワトンボの幼虫やヤンマ(?)のヤゴも見つかりました。不気味な線虫、ハリガネムシもいました。対岸では、カワセミの姿やカワガラスがサワガニを食べている光景も見られたそうです。みんなで楽しんだ体育の日でした。(T)



### 学びサポートより

この秋、夕方に東の空からのぼって、夜遅くには南の空に明るく輝いているの星は木星です。天空の王「ジュピター」という名のとお

り、堂々とした姿。11月に入り、午後5時になると外は暗くなります。夕方晴れる日が多くなったので、久しぶりに望遠鏡を持ち出して、木星と月を観察しました。子どもたちにも木星の縞が見えたようです。周囲をめぐる4つの衛星のうち、いくつかが見えました。資料不足で、どれがどれかわかりませんでした。次回は衛星の位置図を持ってこなければ...。お月様は半月。真横からの太陽光でクレーターが立体的に見えます。「教科書に載ってる月だ!」という声も聞かれました。たしかにテキストにある月の望遠鏡写真は半月が多いです。こんどは月のない夜、アンドロメダ銀河を探しましょう。

又ミヤーンの「なんにわマンガ」は随時掲載です。カラーでご覧になりたい方はホームページをご覧ください。

## 特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 日光市今市378  
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631  
E-mail: info@nantonakuno.net  
ホームページもご覧ください。  
<http://www.nantonakuno.net/>



## 私たちの活動目的：

日光市およびその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して学習や自立の支援活動を行い、地域の人が支える新たな学びの場を作り出すことを目的とします。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動



ここにここにっこう！ 日光市子育て支援 HP  
<http://www.nantonakuno.net/kosodate/>

## こんな本はいかが？ その13 こどもの絵本あれこれ

今回は、おじいちゃんやおばあちゃんが孫に語って聞かせるようなお話の紹介です。是非お父さんやお母さんもお子さんに語って聞かせてみてはどうでしょう。（白井）

- ① 落語絵本 ばけものつかい 川端 誠作 クレヨンハウス  
ひとりのごいんきょさんが、古いお屋敷にひっこしてきました。そこにやってきたのは一つ目小僧・ろくろっ首・三つ目の大入道・・・その正体は？
- ② なんげえはなしっこしかへがな  
北 彰介・文 太田 大八・絵 銀河社  
この絵本は津軽弁で書かれています。津軽弁の暖かさを感じ取りながら語ってみると、とっても暖かいい気持ちになるお話です。
- ③ じごくのそうべい たじま ゆきひこ 作 童心社  
これは上方落語(地獄八景亡者の戯れ)を絵本にしたものです。上方の落語を語るように読んでみると、これもなかなか面白いものです。
- ④ ひとりぼっちのさいしゅうれっしゃ  
いわむら かずお 作 偕成社  
れっしゃにのってきたのは、ねずみ いのしし おすのちやぼくじゃく そして、くま・・・この本は栃木の方言満載の絵本です。

## 会員について

正会員：50

賛助会員：20

団体会員：3

入会金はありません。

年会費(一口)：正会員3,000円

賛助会員 個人5,000円、団体10,000円

「なんにわ」活動の約3割は会費でまかなわれています。会員の継続をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いします。



## なんとなくのへや

「辻」という漢字があります。いま、この枠内の字体(フォント:HG-丸ゴシック M)では1点しんにゅう(または、しんにょう)になっています。ところが近頃のパソコンで字体を「MS 明朝」に変更すると、「辻」と、ご覧のように2点になるのです■もともとは「2点しんにゅう」のはずなのに、1980年頃のJIS規格で「1点」にしてしまったのが原因とか。2004年の規格で「2点」に修正され、その結果、同じパソコンに1点と2点の「辻」が混在することになってしまいました。1点しんにゅうの「辻」はずっと使われていたため、この字を書きってしまう人が多いのではと思いますが、辞書などに印刷された「辻」はすべて2点しんにゅうです■岩波新書『日本の漢字』で「岨(あけんばら)」という字の由来を読んで驚いたことがあります。もとの地名では、「山」と「女」の間には何もありませんでした。新たにこの文字のフォントを作るとき、ふたつの字を紙に貼り付けて複写したところ、影になって残った紙のつなぎ目が「一」に見え、「岨」の字が生まれてしまったということです。つまり「岨」はコンピュータの文字として登録されるまで、この世に存在しなかった文字なのです■こんな話を聞くと、厳密に決められているはずの「工業規格」でさえも、関わった人間のうっかりミスや思い込みが織り込まれた歴史を持っているのだと、妙に感心してしまいます。(T)